

I.2. 大学院生の研究業績

<言語文化専攻>

博士前期課程

博士前期課程 1 年

沈 吉穎

その他：

- ・第 42 回関西地区外国人留学生による日本語弁論大会（関西外国語大学）国際ソロ
プチミスト枚方中央賞受賞 2017 年 11 月 26 日
- ・第 7 回全日本留学生日本語スピーチコンテスト（日本経済大学）敢闘賞受賞 2017
年 12 月 20 日 大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム

博士前期課程 2 年

小倉 永慈

口頭発表：

- ・「Richard Powers の *The Gold Bug Variations* における恋愛と遺伝 — 『二つの文化』を乗り越えて」新英米文学会第 48 回大会（千葉工業大学）2017 年 8 月 26 日.

博士前期課程 2 年

久次 優子

ポスター発表：

- ・「ピア・リーディングにおける知識の相互行為的達成 — クリティカル・リーディング力育成を目指した活動のタスク横断的な会話分析 —」言語文化教育研究学会第 4 回年次大会（立命館大学）2018 年 3 月 11 日.

博士前期課程 2 年

服部 拓哉

口頭発表：

- ・「日本人英語学習者による非下降調の誤選択」近畿音声言語研究会（西宮市大学交流センター）2017年7月1日.
- ・“Misuse of Non-Falling Tones by Japanese EFL Learners” 大阪大学言語文化学会第52回大会（大阪大学）2017年10月26日.

博士前期課程2年

朴 香芸

論文：

- ・「小説から映画へのアダプテーションについて ―時代の変遷におけるジェンダーの表象について―」『言語文化学』26（大阪大学言語文化学会）pp. 57-69. 2017年3月
- ・「文化大革命時代のユートピア的表象 ―姜文の『太陽の少年』―」『言語文化学』27（大阪大学言語文化学会）2018年3月

口頭発表：

- ・「短編小説から映画へのアダプテーションについて ―映画『陽もまた昇る』を例として―」大阪大学言語文化学会第50回大会（大阪大学）2016年10月27日.

博士前期課程2年

三野 貴志

論文：

- ・“Pragmatic Constraint on *There Speak* Construction and Its Peculiarities” *ELSJ*（日本英語学会）pp. 266-272. 2018年3月.

口頭発表：

- ・“Pragmatic Constraint on *There Speak* Construction and Its Peculiarities” *ELSJ International Spring Forum 2017*（明治学院大学）2017年4月23日.
- ・“Constructional Approach to *There COME* Construction with a Special Focus on Logical Subjects” 2017 *Linguistics Institute*（ケンタッキー大学）2017年7月9日.
- ・「*There comes* 時間表現構文と否定文との関わり」日本言語学会第155回大会（立命館大学）2017年11月25日.

その他：

- ・大阪大学未来戦略機構第一部門博士課程超域イノベーションプログラム所属
- ・国際春季フォーラム優秀発表賞（佳作）受賞、2017年7月
- ・平成29年度超域イノベーション博士課程プログラム独創的な教育研究活動経費、学内競争的資金課題採択

博士前期課程2年

横川 未奈

口頭発表：

- ・「中国人大学院生・研究生の日本語Eメール作成に関する意識 — 教員宛てメール文章の分析とインタビュー調査から —」第20回専門日本語教育学会研究討論会（名古屋大学東山キャンパス）2018年3月2日。

博士後期課程

博士後期課程1年

浅野 元子

論文：

- ・「医学論文考察部に学ぶ：論理展開の出現と特徴語についての検討」The medical research article discussion: Linguistic features of English and ordering of moves. 『統計数理研究所共同研究レポート386 テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』（統計数理研究所）pp. 83-105. 2017年3月
- ・「医学論文における言語的特徴のコーパス研究：教育応用についての試みの延長研究」A corpus-based ESP approach to medical research article reading: A pilot extension study with Japanese undergraduate students. 『言語文化共同プロジェクト2016 テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』（大阪大学）pp. 55-91. 2017年5月
- ・“Linguistic features of discussion sections of English medical research paper genres and their pedagogical implications”. *JACET International Convention Selected Papers 4*,

55–83. (Co-authored with Noguchi, J.) August 2017.

- ・「ESP アプローチによる医学論文のタイトルと抄録の Reading 授業実践: Moodle を利用して」 ESP approach to teaching reading medical research article titles and abstracts to NNS undergraduate students using moodle. 中川一成（編）『大阪医科大学紀要人文研究第 49 号』 pp. 35–60. 2018 年 3 月
- ・「英語医学論文考察部における日本人著者と中国人著者による言語使用の特徴」 田畑智司（編）『統計数理研究所共同研究レポート 405 実践計量文体学: ジャンル, トピック, キーワード』（統計数理研究所） pp. 15–34. 2018 年 3 月

口頭発表：

- ・“Linguistic evidence of a cultural viewpoint in medical research articles” Faces of English 2: Teaching and Researching Academic and Professional English. (The University of Hong Kong) June 2, 2017 (Co-presented with Noguchi, J.)
- ・「AntCorGen の使用経験の共有」 大学英語教育学会関西支部 科学英語教育研究会第 7 回（大阪工業大学 梅田キャンパス） 2017 年 8 月 9 日
- ・“Linguistic features of English in Medical Research Article Abstracts Written by Japanese Authors” JACET 44th Summer Seminar 2017 (Waseda University) August 26, 2017
- ・“Revealing Oral and Written Features of English Academic Genres: Pedagogical Implications of Corpus Studies of Life Science News Transcripts and Journal Article Abstracts” 大学英語教育学会第 56 回国際大会 JACET 56th International Convention（青山学院大学） 2017 年 8 月 31 日（Co-presented with Noguchi, J.）
- ・「医学研究論文ジャンルにおけるコーパス作成ツール AntCorGen を活用した教育の可能性—Construction of Corpora for Discipline-Specific Learning in Medical Research Article Genres」 英語コーパス学会第 43 回大会（関西学院大学） 2017 年 9 月 30 日
- ・「機械翻訳とポストエディットの現状について—セミナーとワークショップを通じて Machine Translation and Post-Editing Tasks for Academic Writing—A Report of Seminar and Workshop」 大学英語教育学会関西支部 科学英語教育研究会第 7 回（大阪工業大学 梅田キャンパス） 2017 年 12 月 16 日

博士後期課程 1 年

井原 駿

論文：

- ・「命令形式文の統語構造：統語・形態・意味のインターフェースから」『KLS Proceedings（関西言語学会第41回大会発表論文集）』（関西言語学会）pp. 123-142.（野口雄矢氏との共同研究）2017年9月.
- ・“What Sentence-final Particle NE Does in Imperatives” *The Proceedings of the 19th Conference of the Pragmatic Society of Japan*. (The Pragmatic Society of Japan) pp. 239-243. 2017年12月.
- ・「終助詞における義務的含意と前提の最大化」『日本言語学会第155回大会発表論文集』（日本言語学会）pp. 258-269. 2017年12月.

口頭発表：

- ・“Necessity, Directives, and Three Types of Imperatives” The 26th edition of the Conference of the Student Organisation of Linguistics in Europe XXIVI (University College London, London). 2018年2月14日.
- ・「これもコンピュータじゃろうか？—日本語におけるキャラコンピュータの意味論・語用論」日本語用論学会第20回大会 ワークショップ「新規表現の語用論への多角的アプローチ」（京都工芸繊維大学，京都）2017年12月16日.
- ・「終助詞における義務的含意と前提の最大化」日本言語学会第155回大会（立命館大学，京都）. 2017年12月16日
- ・“Imperatives with/without Necessity” The 25th Japanese/Korean Linguistic Conference (University of Hawai‘i at Mānoa, Honolulu). 2017年10月15日.（野口雄矢氏との共同研究）
- ・“Contrastive Topics and the Dual Character of Imperatives” The English Linguistic Society of Japan 10th International Spring Forum (Meiji Gakuin University, Tokyo). 4月23日.
- ・「副詞「どうか」の共起性と意味—命令形式文の意味をもとに一」日本語文法学会第17回大会（神戸学院大学，神戸）. 2016年12月11日.（野口雄矢氏との共同研究）
- ・“What Sentence-final Particle "Ne" Does in Imperatives” The 18th Conference of the Pragmatic Society of Japan (Shimonoseki City University, Shimonoseki). 2016年12月10

日.

その他：

- ・(研究助成)「組み合わせ範疇文法 (CCG) を用いた日本語発話形式処理システムの構築」日本学術振興会特別研究員奨励費 (DC1) (代表者)
- ・(研究助成)「量化に関する実験語用論的研究」日本学術振興会二国間交流事業 (分担者)

博士後期課程 1 年

オユナー ノミン

論文：

- ・「相互行為にみる恣意的描き方とその背景：解説番組におけるモンゴル人女性の描写を通して」『言語文化共同研究プロジェクト 2016 相互行為研究③—メディアと談話』(大阪大学) pp. 51-60. 2017 年 5 月.
- ・「語りにみる外国人女性のアイデンティティとその表出 —在日モンゴル人女性を事例に—」『社会言語科学会第 41 回大会論文集』 pp.124-127. 2018 年 3 月.

口頭発表：

- ・「語りにみる外国人女性のアイデンティティとその表出 —在日モンゴル人女性を事例に—」社会言語科学会第 41 回大会 (東洋大学) 2018 年 3 月 11 日.

博士後期課程 1 年

勝部 三奈子

口頭発表：

- ・「国内の民間日本語学校日本語教師のアイデンティティ —元同僚とのインタビューの中で協働的に構築される語りからの考察—」言語文化教育研究学会第 3 回年次大会(関西学院大学) 2017 年 2 月 25 日.

博士後期課程 1 年

川村 明日香

論文：

- ・「アフリカイメージの創られ方 ―ミュージカル『ライオンキング』を通して―」
『言語文化学』27（大阪大学言語文化学会）2018年3月.

口頭発表：

- ・「ミュージカル『ライオンキング』におけるアフリカイメージの生成方法」大阪大
学言語文化学会第51回大会（大阪大学）2017年6月29日.

その他：

- ・「アフリカ表象探検記―スワヒリ語を探してディズニーテーマパークへ―」『Mwenge』（ア
フリカ文学研究会）pp.76-p.80. 2018年1月
- ・（教材開発補助）「言語文化専攻 研究実践基礎」2017年4月～2018年2月（共同）

博士後期課程1年

桑原 拓也

口頭発表：

- ・「Paul Auster 作品の9/11 表象を問う ―The Brooklyn Follies と Man in the Dark」英文学
会関西支部第12回大会（京都女子大学）2017年12月17日.

博士後期課程1年

野口 雄矢

論文：

- ・“Does ForceP determine all the illocutionary forces?: A case study of dictionary form imperatives
in Japanese.” *Proceedings of Formal Approaches to Japanese Linguistics* 8. pp. 75-85. 2016年
12月.
- ・「命令形式文の統語構造：統語・形態・意味のインターフェースから」『Proceedings of the
Forty-first Annual Meeting of The Kansai Linguistic Society』 pp. 25-36. 2017年6月. ※井原
駿氏との共同研究

口頭発表：

- ・「副詞「どうか」の共起性と意味―命令形式文の意味をもとに―」日本語文化学第17回
大会（神戸学院大学）2016年12月11日. ※井原駿氏との共同研究
- ・「日本語直接引用節再考―生成文法・日本語学の観点から―」日本言語学会第154回大会

(首都大学東京) 2017年6月14日.

- “Imperatives with/without necessity.” The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (University of Hawaii) 2017年10月14日. ※井原駿氏との共同研究
- “A Further Investigation into Double Complement Accusatives in Japanese.” Workshop on (Nominal) Argument Clause Structure in Japanese (Osaka University) 2018年1月21日.

博士後期課程2年

占部 歩

口頭発表:

- 「ヴィクトル・ペレーヴィンと筒井康隆 —フィクションという遊び—」大阪大学言語文化学会第51回大会(大阪大学) 2017年6月29日.

博士後期課程2年

榎原 実香

論文:

- 「極限のモと普遍数量詞の統語構造」『問谷論集』pp.85-104. 2017年3月.
- 「主題句に現れる「も」について」『言語文化共同研究プロジェクト 2016 自然言語への理論的アプローチ』(大阪大学) pp.11-20. 2017年5月.

口頭発表:

- 「「も」の解釈へ統語論的アプローチ —累加と全称を中心に—」日本言語学会第155回大会(立命館大学) 2017年11月25日.
- 「モの周縁的用法の再分類 —文の階層構造ととりたての観点から—」日本語文法学会第18回大会(筑波大学) 2017年12月3日.

博士後期課程2年

木場 安莉沙

論文:

- 「子供向けテレビアニメにおける「オカマ」キャラの表象 —性的イデオロギーと想定される参加者からの排除—」『言語文化共同研究プロジェクト 相互行為研究

③『メディアと談話』(大阪大学) pp.41-50. 2017年5月.

口頭発表:

- ・ “A multilayered frames and sexuality perspective: mixed use of katakana and English pronunciation by L2 speakers of Japanese”, 15th International Pragmatics Conference, (Belfast UK) (パネル名: Risako Ide & Kaori Hata, “The Pragmatics of “Bonding” in Cross-Cultural Encounters: East Asian Perspectives”) 2017年7月18日.

博士後期課程2年

陳 曦

論文:

- ・ 「後部要素が状態や動作をあらわす四字漢語のアクセント融合問題 —統語的關係と意味の視点から—」『言語文化学』26 (大阪大学言語文化学会) pp. 3-16. 2017年3月
- ・ 「アクセント辞典から見る4字漢語で表記される語のアクセント —NHK系2冊と明解系2冊の『ア』～『カ』で始まる語を例に—」『言語文化研究プロジェクト2016 音声言語の研究11』(大阪大学) pp. 37-47. 2017年5月.

口頭発表:

- ・ 「後部要素が状態や動作をあらわす4字漢語のアクセントの自然度評価」日本音韻論学会2017年度春期研究発表会(慶應義塾大学日吉キャンパス)2017年6月23日.

博士後期課程3年

杉山 真央

論文:

- ・ “Strategies Used by U.S. Presidential Candidates in Their Speeches” *English Corpus Studies* 24, pp.1-18, (英語コーパス学会) 2017年5月. (Mao SUGIYAMA and Naoki KIYAMA)
- ・ 「雑誌『ルベージ』に見られるЯпония(ヤポニーヤ)とНиппон(ニッポン)の呼称変化について」『セーヴェル(север)』pp.42-65. 2017年3月.

口頭発表：

- ・ “How Russian presidents' agenda has changed over the last two decades” Österreichische Linguistiktagung (Alpen Adria Universität Klagenfurt) 2017 年 12 月 8 日
- ・ 「エリツィン大統領の年次教書と『独立新聞』の報道記事」言語研究と統計 2017 (統計数理研究所) 2017 年 3 月 29 日.

その他：

(研究助成) 日本学術振興会特別研究員 DC2

博士後期課程 3 年

安保 夏絵

論文：

- ・ 「21 世紀に読む『侍女の物語』(The Handmaid's Tale) —アトウッド作品における女性、身体、アメリカ— 『言語文化学』27 (大阪大学言語文化学会) pp. 1-12. 2018 年.

口頭発表：

- ・ 「変容する V., 混濁の V.-V.に見るサイボーグ・フェミニズムの可能性」神戸女学院大学英語英文学会 (神戸女学院大学) 2016 年 11 月 25 日.
- ・ 「Resuscitation of a Hanged Man —引用的想像力が紡ぐ探偵物語」アメリカ文学学会 関西支部 若手シンポジウム「Crisscrossing Denis Johnson: デニス・ジョンソンの創作における家と反復」(大阪大学) 2018 年 1 月 5 日.

博士後期課程 3 年

石野 未架

論文：

- ・ “Constructing students' Deontic Status by Use of Alternative Recognitional for Student Reference” *Classroom Discourse* (Taylor & Francis) pp. 1-17. 2017 年 12 月 (Online first).
- ・ “Subversive Questions for Classroom Turn-Taking Traffic Management” *Journal of Pragmatics* (Elsevier) pp. 41-57. 2017 年 8 月
- ・ “Strategic Identity formation of Foreign Assistant Language Teachers in Japan”

Proceedings of the 69 Annual Conference of Japan Society of Educational Sociology (日本教育社会学会) pp.280–281. 2017年10月

- ・「メディアにおける『科学技術コミュニケーション』の考察 —ある研究不正疑惑に係る記者会見の相互行為分析から—」『言語文化研究科共同プロジェクト 2016 相互行為研究3 —メディアと談話』(大阪大学) pp.31–40. 2017年5月

口頭発表：

- ・“On-the-spot Repair Initiation in Commenting Sequence of Students’ Oral Presentations” American Association for Applied Linguistics (AAAL) Conference 2018. (Chicago, Illinois) 2018年3月26日.
- ・“Using a Disjunctive Marker to Teach English in English” The 43th Annual International Conference on Language Teaching and Learning Japan (JALT). (Tsukuba International convention center, Ibaragi) 2017年11月20日.
- ・“Conceptualizing Teacher’s Tacit Choice of a Student-Reference” American Association for Applied Linguistics (AAAL) Conference 2017 (Portland, Oregon) 2017年3月19日.
- ・“Examining Service Seekers’ Participation in a Video-Mediated-Interpretation Service Setting” Conversation Analysis Working Group (CAWG) Winter meeting 2017 (Los Angeles, California) 2017年3月9日.

博士後期課程3年

泉谷 律子

論文：

- ・“Avoidance of evaluative responses in EFL classroom”. *The 2016 PanSIG Journal*. pp. 117-125. JALT. 2017年11月
- ・“The recipient design of teacher-talk for shared understanding”. *The 14th Asia TEFL and 11th FEELTA international conference proceedings*. pp 63-68. 2016年12月

口頭発表：

- ・「中学校英語授業の教室談話分析 —質的研究 現象学的アプローチの試み」第26回外国語教育質的研究会(大阪大学) 2016年12月24日.

その他：

- ・指導助言講師 滋賀県「小中高系統的英語教育推進事業」第2回授業研究会（滋賀県立高島高等学校） 2016年12月12日
- ・指導助言講師 滋賀県「小中高系統的英語教育推進事業」第1回授業研究会（滋賀県立高島高等学校） 2017年7月13日

博士後期課程3年

後藤 秀貴

論文：

- ・“On the Understanding of HARA, KIMO, and HARAWATA in Japanese” 『日本認知言語学会論文集第17巻』（日本認知言語学会） pp. 120-132. 2017年4月.
- ・「再び「胸」の理解をめぐって ―英語との比較から―」 『言語文化共同研究プロジェクト2016 交差するレトリック ―身体と精神、メタファーと認知―』（大阪大学） pp. 39-51. 2017年5月.
- ・「日英語の胸部と腹部の理解をめぐって ―比喩的認知を生む身体経験、社会・文化経験の観点から―」 JELS35（日本英語学会） pp. 21-27. 2018年2月.

口頭発表：

- ・「日英語の胸部と腹部の理解をめぐって ―比喩的認知を生む身体経験、社会・文化経験の観点から―」 日本英語学会第35回大会（東北大学）2017年11月18日.

博士後期課程3年

銭 蕾

口頭発表：

- ・「中国におけるヤオイ受容状況 ―中国のヤオイ情報誌を中心に―」 大阪大学言語文化学会第52回大会（大阪大学）2017年10月26日.

博士後期課程3年

林 桂生

論文：

- ・「支援職のオリエンタリズム的思考 ―『発達障害がある人のナラティブを聴く』

を読む一』『言語文化学』26（大阪大学言語文化学会） pp.17-29. 2017年3月.

- ・「勤労中高年 ASD 者のオートエスノグラフィー」『言語文化学』27（大阪大学言語文化学会） pp.27-39. 2018年3月.

口頭発表：

- ・「勤労中高年 ASD 者のオートエスノグラフィー」大阪大学言語文化学会第51回大会（大阪大学）2017年6月29日.
- ・「自閉症カフェにおけるオートエスノグラフィー」大阪大学言語文化学会第52回大会（大阪大学）2017年10月26日.

その他：

- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第14回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ『勤労中高年 ASD 者に関わること』」（大阪大学）2016年12月4日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第15回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ『中高年 ASD 者の仕事の困難・生活の不安』」（大阪大学）2017年1月21日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「阪大自閉症サイエンスカフェ（第16回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ）『自閉症スペクトラムの特性について語ろう』」（大阪大学）2017年3月5日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第2回阪大自閉症サイエンスカフェ（第17回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ）『自閉症スペクトラムの特性について語ろう2』」（大阪大学）2017年4月23日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第3回阪大自閉症サイエンスカフェ（第18回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ）片山泰一先生講演会『ASD 者の感覚とコミュニケーション』」（大阪大学）2017年6月11日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第4回阪大自閉症サイエンスカフェ（第19回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ）『ASD の特性に関すること』」（大阪大学）2017年7月23日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第20回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ（第5回阪大自閉症サイエンスカフェ）『勤労中高年 ASD 者の悩み（コミュニケーション・介護・感覚過敏・チック他）』」（大阪大学）2017年9月22日.

- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第 21 回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ（第 6 回阪大自閉症サイエンスカフェ）『勤労中高年 ASD 者の悩み』（大阪大学）2017 年 12 月 3 日.
- ・（自閉症啓発イベント主宰・企画・進行）「第 22 回阪大自閉症スペクトラム（ASD）カフェ（第 7 回阪大自閉症サイエンスカフェ）片山泰一先生ミニ講演会『ASD 者の特性について考える』（大阪大学）2018 年 3 月 4 日.

<言語社会専攻>

博士前期課程

博士前期課程 1 年

WONG PUI YU JOLIE（黄 沛瑜）

口頭発表：

- ・「『踏血尋梅』の王佳梅についての考察：中国大陸から香港へ移住した青少年に迫る社会問題を中心に」第十回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境：史料・認識・対話」（大阪大学）2017 年 8 月 27 日.
- ・「以小説重構歴史——比較〈細雨紛紛〉和〈為逝去的……〉」異代新聲：馬華文學與文化研究生國際研討會（壹灣大學）2018 年 3 月 24 日.

博士前期課程 1 年

宋 新亜

論文：

- ・（中国語）「近年来日本学界的郁达夫研究—以大东和重的近著为中心（日本における郁達夫の研究—大東和重の著作を中心に）」『漢語言文学研究』2017 年 9 月. pp130—135

口頭発表：

- ・「記憶としての旧制高校—『茫茫夜』を中心に」中国文芸研究会（同志社大学）2017 年 10 月

ポスター発表：

- ・（中国語）「1920 年代初期归国留日知識分子的探索—以郁达夫《茫茫夜》的创作为中心」

現代中国与东亚新格局：史料・认识・对话国际会议（大阪大学）2017年8月26日-8月27日

博士前期課程1年

木下 実紀

口頭発表：

- ・「J.モリア『ハージーバーバーの冒険』から見るイギリス人の眼差しと作品の影響」大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会（大阪大学言語文化学会第52回大会）（大阪大学）2017年10月26日.
- ・「イスタンブールにおけるミールザー・ハビーブ・エスファハーニーと同胞の軌跡」関西イラン研究会第51回大会（大阪大学）2018年1月27日.
- ・「イランにおける散文受容の流れと『エスファハーンのハージーバーバーの冒険』の翻訳による社会批判」世界文学・語圏横断ネットワーク第8回研究集会（立教大学）2018年3月31日.

博士前期課程2年

近藤 佑樹

論文：

- ・“The Voice of the Revenant Returns: The Transcendence of the Female Terrorist in Philip Roth's American Pastoral” 『関西アメリカ文学 54』（日本アメリカ文学会関西支部）2017年10月. pp. 21-33.

口頭発表:

- ・「憑依されしトポスにおける生者と死者—Philip Rothの未完のプロジェクト」大阪大学言語文化学会第52回大会（大阪大学）2017年10月26日.
- ・「紡がれるLeoのロードムービー “The Starveling”における現実と視覚メディアの境界」、科学研究費・基盤研究（B）「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星的想像力」2017年度第4回研究会「ポストモダン・アメリカの現在形」ワークショップ Don DeLillo, “The Starveling”を読む（成蹊大学）2018年2月19日.

その他：

- ・日本アメリカ文学会関西支部第4回奨励賞（2017年10月30日公示 『関西アメリカ文学 54』での投稿論文が対象）

博士前期課程2年

長尾 麻由季

論文：

- ・「トニ・モリスンの児童文学における創造的教育の可能性——『子どもたちに自由を！』と『意地悪な人たちの本』を中心に」『EX ORIENTE』（大阪大学言語社会学会）2018年3月．pp.145-172.

口頭発表：

- ・「Toni Morrison の児童文学における教育のジレンマ——The Big Box と The Book of Mean People を中心に」2017年度春季大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会（大阪大学）2017年6月29日．
- ・「Toni Morrison's "Recitatif" and Education: Learning (De)construction of Racial Codes」The American Literature Association (ALA) 他共催シンポジウム“American Short Story: New Horizons” (Johannes Gutenberg University) 2017年10月6日．
- ・「Toni Morrison の Beloved における「教育」」日本アメリカ文学会第56回全国大会（鹿児島大学）2017年10月14日．
- ・「Morrison and the Politics of Education: The Sowings in and through The Bluest Eye」The Pacific Ancient and Modern Language Association (PAMLA) 2017年度年次大会（Chaminade University of Honolulu）2017年11月11日．
- ・「Toni Morrison における「教育」のデザイン——Sula の発芽の意匠をめぐって」黒人研究学会1月例会（龍谷大学）2018年1月27日．

博士後期課程

博士後期課程1年

ホーファー・ファビエン

口頭発表：

- ・「日本語「国民」と「民族」の原語、意義変容と普及」言語文化学会第52回大会（大阪大学）2017年10月26日
- ・「日本語と中国語における「国民」と「民族」の意義変容と普及—1895年前後の台湾知識人への影響」台湾史研究会（関西大学）2017年11月26日
- ・「日本語「国民」と「民族」の原語、日本と台湾における普及」第15回日本台湾学会関西部会研究大会（京都光華女子大学）2017年12月16日

博士後期課程2年

伊澤 亮介

論文：

- ・「ベトナムにおける「西遊記」受容についての一考察」『滋賀短期大学研究紀要』第41号 2017年2月. pp. 137-155.
- ・「ベトナムの民間における「西遊記」受容—水上人形劇の台本と『西口傳』の分析から」EX ORIENTE「えくすおりえんて」（大阪大学言語社会学会）vol. 25（掲載予定）
- ・「ベトナムの人形劇とその幼児への教育的効果」『滋賀短期大学研究紀要』第42号 2018年2月. pp. 161-173
- ・「ベトナムにおける王昭君関連文学作品」『滋賀短期大学研究紀要』第42号 2018年2月. pp. 195-202

口頭発表：

- ・“Some characteristics and a common feature of programs of each Vietnamese water puppets troupe – through comparing their programs and analyzing some scripts” Int’l Conf. on Vietnamese-Taiwanese studies（成功大学（台湾）2016年11月13日.
- ・「各劇団に共通する演目に見る水上人形劇の一側面とベトナム民間文学」東南アジア学会関西地区例会（京都大学）2017年11月11日.

博士後期課程2年

村上 陽香

論文：

- ・「『欲望という名の電車』の終着駅——ブランチと同性愛者の影」『EX ORIENTE』第

24号（大阪大学言語社会学会）2017年3月31日、171-197頁

口頭発表：

- ・「死を迎える時に求めるもの——交錯するパラレル・ワールドから成る The Lady from Dubuque」日本アメリカ文学会第56回全国大会（鹿児島大学）2017年10月14日
- ・「「声」で進行する Denis Johnson の演劇—Shoppers Carried by Escalators into the Flames におけるTV/テレビの声と言葉」日本アメリカ文学会関西支部1月例会若手シンポジウム（大阪大学）2018年1月6日

博士後期課程2年

中山 大輝

論文：

- ・「人種・家族・コミュニティ— August Wilson の Seven Guitars における人種的抵抗の精神とコミュニティの歪み —」、『英米研究41号』（大阪大学英米学会）2017年3月31日発行、pp. 131-153

口頭発表：

- ・「家族の不和を超えて—Fences における家父長制と人種的遺産の継承」第56回日本アメリカ文学会全国大会（於：鹿児島大学）、2017年10月14日発表

博士後期課程2年

李 佳

論文：

- ・《基于物性结构的日本汉语教材动宾搭配考察——以 HSK1.2 级名词为对象——》『现代语言学 5卷3期』（汉斯出版社）2017年8月. pp. 285-292.
- ・《日本本土初级汉语教材中的动宾搭配考察——以新 HSK1.2 级名词为对象——》『全球化的中文教育：教学与研究』（中央民族大学出版社）2017年6月. pp. 193-202.
- ・《初级日本汉语学习者的动宾式离合词习得现状及分析》『汉语与汉语教学研究』（樱美林大学孔子学院）2017年7月. pp. 98-107.
- ・《典型动宾搭配在接受性习得与产出性习得的对比分析 ——以日本中级学习者对象——》『中国語教育 第16号』（遊文舎）2018年3月. pp. 125-145.

口頭発表：

- ・《日本汉语学习者的基本词语搭配初探 --以“V 双+时间”为例--》 第二届汉字文化圈華語教學專題研討會(台湾 国立清華大学) 2017年2月18日
- ・《典型动宾搭配在接受性习得与产出性习得的对比分析》 第七届东亚汉语教学研究生论坛(桜美林大学) 2017年5月14日
- ・《基于物性结构的日本初级汉语教材动宾搭配考察 --以 HSK1.2 级名词为对象-- 》 中国語教育学会第15回全国大会 (関西大学) 2017年6月3日
- ・《日本本土初级汉语教材中的动宾搭配考察--以新 HSK1.2 级名词为对象--》 十四届国际汉语教学学术研讨会 (University of Macau 澳门大学) 2017年6月18日

博士後期課程3年

小川 典子

論文：

- ・「日本語を母語とする中国語学習者の未知語の意味推測—学習者の知識源と誤推測の原因に関する考察—」 『EX ORIENTE』 (大阪大学言語社会学会) 2017年3月, pp.81-113.
- ・「汉语高考的内容效度分析—以2010-2016年试卷为对象— (大学入試センター試験「中国語」の内容的妥当性の分析—2010年-2016年の試験問題を対象として—)」 『中国語教育』 (中国語教育学会) 2017年3月, pp.147-167.

口頭発表：

- ・「日本語を母語とする中国語学習者のL2読解の中での付随的語彙学習—10名の学習者のケーススタディー」 中国語教育学会第15回全国大会 (関西大学) 2017年6月4日.

博士後期課程3年

石田 美香

口頭発表：

- ・「Women's Right and Obligation of Jury Service: By analyzing the U. S. Supreme Court Cases and its Background」 政治社会学会第7回総会及び研究大会 日韓ジョイントセッション (武蔵野大学) 2016年11月27日.
- ・「戦後アメリカ統治下における沖縄の陪審制度 1963-1972—陪審員および陪審候補者の分

析一」大阪大学言語文化学会第 52 回大会（大阪大学）2017 年 10 月 26 日.

博士後期課程 3 年

高田 友紀

論文：

- ・「《折奏成语》作者阿昌阿出身小考」『満族研究』 2017 年 6 月. pp. 82-87. (葉勝と共著、セカンドオーサー)

口頭発表：

- ・「李殿君アホン著『中阿双解字典』の小児錦表記体系について」中国ムスリム研究会第 33 回定例会・中央大学政策文化総合研究プロジェクト共催（東洋文庫）2017 年 12 月 23 日.

博士後期課程 3 年

池田 有里

口頭発表：

- ・「高等学校のロシア語教材に関するアンケート調査」日本ロシア語教育研究会 東日本地区 2017 年度研究例会（上智大学）2017 年 6 月 3 日.

博士後期課程 3 年

牧野 友香

口頭発表：

- ・「ランバ語の過去テンスに見る時間の区分」日本アフリカ学会第 54 回学術大会（信州大学教育学部）2017 年 5 月 20 日.
- ・「ランバ語の 2 種類の Anterior-*-li-VR-ile* 形式と *-aa-VR-a* 形式」第 154 回日本言語学会（首都大学東京）2017 年 6 月 24 日.
- ・“Past and Anterior in Lamba” 柴谷ゼミ（平成 29 年度 国際共同研究促進プログラム—準体法研究を中心とした機能文法理論の新展開—）（大阪大学）2017 年 7 月 7 日.

<日本語・日本文化専攻>

博士前期課程

博士前期課程 2年

植田 志穂

論文：

- ・「ジャナイカの典型的機能と周辺の機能—ビルマ語、カザフ語、タイ語、インドネシア語との対照から—」『複数の体系から見た日本語研究ワークショップ報告論集 第1号』(大阪大学 中田一志研究室) 2017年3月. pp.13-25 ※共著者:カンジャマーポンクン・サティダー、ドゥウィ・プスピトサリ、トゥ・トゥ・ヌエ・エー、ラヒムバエヴァ・ナジム
- ・「テオクの性質と日本語教育における提出法」『日本語・日本文化研究 第27号』(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻) 2017年12月. pp.204-215

博士前期課程 2年

橋本 凜

論文：

- ・「美意識「洒落」の変革期：明治・大正・昭和を中心に」『日本語・日本文化研究』(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻) 2016年12月. pp.192-203

博士前期課程 2年

金谷 由美子

論文：

- ・「『やっぱり』についての一考察—『一致説』への反論—」『日本語・日本文化研究第27号』(大阪大学大学院言語文化研究科) 2017年12月. pp.183-193.

口頭発表：

- ・「漢語サ変動詞のボイスに関する一考察—和語の有対・無対との関係から—」日本語／日本語教育研究会第9回大会(大阪大学) 2017年10月1日.
- ・「「どうせ」のはたらき—「어차피(於此彼)」との対照を通して—」日本語用論学会第

20 回大会（京都工業繊維大学）2017 年 12 月 17 日.

博士前期課程 2 年

クイ シェンキアン

論文：

- ・「補助動詞「～てみる」の一考察-日本語とクメール語とベトナム語との対照-」『阪大日本語教育学研究』第 8 号 2017 年 3 月. pp. 39-61.

ポスター発表：

- ・「日本語とクメール語における勧誘会話の対照研究—」『社会言語科学会』第 40 回大会発表論文集（関西大学）2017 年 9 月 17 日. pp. 152-155.

博士前期課程 2 年

ドウィ・プスピトサリ

口頭発表：

- ・「インドネシア人日本語学習者による複合動詞の産出における困難点—誤用分析を中心に—」第 7 回インドネシア人研究者との合同研究発表会—日本語研究と日本語教育の効果的な相互乗り入れへの展望—（スラバヤ国立大学）2018 年 3 月 20 日.

博士後期課程

博士後期課程 1 年

米澤 千昌

論文：

- ・「CLD 児の主体性を育む教員・指導員の働きかけに関する一考察—働きかけの役割と連携による支援の影響に着目して—」『日本語・日本文化研究第 27 号』（大阪大学大学院言語文化研究会日本語・日本文化専攻）2017 年 12 月. pp.139-149

口頭発表：

- ・「外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援教室の実践—保護者との協働活動に着目して—」子どもの日本語教育研究会第 1 回研究会（京都教育大学）2016 年 12 月 4 日

(ポスター発表、伊澤明香、吉川夏渚子と共同で発表)。

- ・「CLD 児支援における学校内での連携支援の有益性の考察—X 小学校国際教室に通う児童 Y の「話す」力の変化に着目して—」第 27 回第二言語習得研究会全国大会 (九州大学) 2016 年 12 月 17、18 日 (ポスター発表)。
- ・「CLD 児の「学び」を育む支援とは—公立小学校に通う一人の CLD 児と他者との関わりに着目して—」日本語教育学会 2016 年度第 9 回研究集会関西地区 (大阪 YMCA 国際専門学校日本語学科) 2017 年 3 月 11 日。
- ・「CLD 児の主体性獲得モデル構築のための一考察—主体性の変容過程ときっかけに着目して—」母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会 2017 年度研究大会 (大阪大学) 2017 年 8 月 17、18 日。

その他：

- ・「外国にルーツを持つ子どものための学習支援教室「きらきら」実践報告—日本生まれ・日本育ちの子どもたちが抱える課題とは—」大阪市ボランティア・市民活動センター開設 30 周年記念事業、(ナーシングアート大阪) 2017 年 2 月 26 日。
- ・「外国にルーツを持つ子どものための学習支援教室「きらきら」実践報告—支援における役割を考える—」大阪市教職員組合 2017 教育研究集会国際連帯の教育分科会 (大阪市立清水小学校) 2017 年 8 月 26 日。
- ・「多文化共生—想像力を働かせて相手を理解しよう—」出来島地域人権研修 (出来島小学校) 2017 年 10 月 12 日。

博士後期課程 1 年

Samsul Maarif (サムスル・マアリフ)

口頭発表：

- ・「The Semantic Extension of Japanese Color Terms : Through the Usage of Phrasal Metonymy」 Indonesian Student Association Scientific Conference 2017 (Osaka University) 2017 年 10 月 21 日。
- ・「日本語・インドネシア語における謝罪会見の対象研究：意味公式から見られる文化の違い」第 7 回インドネシア人研究者との合同研究発表会—日本語研究と日本語教育の効果的な相互乗り入れへの展望— (スラバヤ国立大学) 2018 年 3 月 20 日。

博士後期課程 1 年

ANASTASIJA OZEROVA

論文：

- ・「言語的皮肉の現象についての理論とその原理—日本語における皮肉の分析を中心に—」『日本語・日本文化研究第 26 号』（編集委員会）2016 年 12 月. pp. 147-157
- ・（共著）「通言語的な“限界性”からみる移動動詞のヲ格—ロシア語・リトアニア語・ブルガリア語・中国語との対照研究—」『複数の体系から見る日本語研究ワークショップ報告論集』（大阪大学 中田一志研究室）2017 年 3 月. pp. 1-12

口頭発表：

- ・「日本のテレビドラマにおける言語的皮肉」第 11 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（香港公開大学）2016 年 11 月 20 日.
- ・「日本語・英語・ロシア語における言語的皮肉」中田一志研究室ポスター発表会（大阪大学）2017 年 2 月 9 日.

博士後期課程 1 年

NGUYEN THI HUYEN TRANG

論文：

- ・「ベトナム人日本語学習者による日本語の名詞アクセントの産出」『2018 年ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム—紀要』（国立ホーチミン市師範大学）2018 年 3 月

口頭発表：

- ・「ベトナム人日本語学習者による日本語の名詞アクセントの知覚」第 28 回第二言語習得研究会（JASLA）全国大会（お茶の水女子大学）2017 年 12 月 16 日.
- ・「ベトナム人日本語学習者による日本語の名詞アクセントの産出」2018 年ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム（国立ホーチミン市師範大学）2018 年 3 月 24 日.

博士後期課程 2 年

伊澤 明香

論文：

- ・「日伯間でブラジル人帰国生が教育の接続に成功するための学校選択」『複言語・複文化時代の日本語教育』本田弘之・松田真紀子編 凡人社 付録 CD-ROM 2016年10月. pp.89-98.
- ・「CLD 児への日本語指導体制づくりに関する一考察—公立学校の管理職経験者へのインタビュー調査をもとに—」『間谷論集 11号』（日本語日本文化教育研究会）2017年3月. pp.105-134.
- ・「ブラジルの日系人の子どもたちの日本語の読解力に関する一考察」『日本語・日本文化研究 第27号』（大阪大学言語文化研究科）2017年12月. pp.98-107
- ・「複言語・複文化社会ブラジルにおける日系の子どもたちの日本語能力の多様性」『「南米日本語教育シンポジウム 2017：南米における日本語教育の現在と未来—日系社会のポテンシャル」論集』国際交流基金サンパウロ日本文化センター 2018年3月. pp.133-147. (共著：伊澤明香、宮崎幸江、松田真希子)

口頭発表：

- ・「外国にルーツを持つ子どもたちが在籍する公立学校での支援体制の在り方—愛知県でのインタビュー調査からの考察—」日本語教育学会研究集会 第9回 関西地区（大阪YMCA 国際専門学校）2017年3月11日.
- ・「ブラジルの日系人の子どもたちの日本語保持の実態—ブラジルの日本語学校での横断調査から—」母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会（大阪大学）2017年8月17日.
- ・「ブラジルの日系人の子どもたちの日本語保持の実態—アセスメント調査の中間報告—」南米日本語教育シンポジウム 2017（ブラジル サンパウロ サンパウロ日伯援護協会）2017年8月26日.

ポスター発表：

- ・「外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援教室の実践：保護者との協働活動に着目して」第一回子どもの日本語教育研究会（京都教育大学）2016年12月4日.（共同発表者：伊澤明香、米澤千晶、吉川夏渚子）
- ・「MHB 活動報告」日本語教育学会 2017年度 第5回支部集会（立命館大学）2017年9月23日.（共同発表者：伊澤明香、米澤千晶）

博士後期課程 2 年

周 堂波

論文：

- ・「日本游戏教育的現状及其启示」『現代教育技術』2017 年 8 月. pp. 5-11
- ・「Research and Application of Japanese Culture Teaching Assistant System Based on Japanese Eight Views Database」『IEEE CPS』 (.Proceeding of Sixth International Conference of Educational Innovation through Technology) 2017 年 12 月. pp. 278-282.
- ・「近代日本における庭園観の形成—後藤朝太郎の言説を中心に」『言語文化研究』2018 年 1 月. pp. 13-24.

口頭発表：

- ・「弁当の文化史小論」2016 年第十一回日本語教育・日本研究シンポジウム (香港公開大学) 2016 年 11 月 19 日.
- ・「近代日本における庭園観の形成 —明治時代から昭和初期まで— 」第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム (延辺大学) 2017 年 8 月 19 日.

博士後期課程 2 年

OKIE DITA APRIYANTO (オキ ディタ アプリヤント)

論文：

- ・「補助動詞「～てくる」における変化の用法についての一考察」『阪大日本語教育学研究』第 8 号 特集補助動詞 大阪大学大学院言語文化研究科 筒井佐代研究室 pp. 1-14
共著者：北口信幸

口頭発表：

- ・「日本語とインドネシア語のあいづちの使用の対照研究—「質問」から始まる連鎖組織の中に現れるあいづち—」第 30 回日本語日本文化教育研究会 (大阪大学) 2017 年 10 月
- ・「日本語とインドネシア語の会話における「質問」から始まる連鎖組織の対照研究—3 番目の発話が<理解>のあいづちである連鎖を中心に—」2017 年度ハノイ国家大学外国語大学国際シンポジウム (ハノイ大学) 2017 年 11 月
- ・「日本語とインドネシア語の会話における連鎖組織の対照研究 —<理解>のあいづちが現れる連鎖を中心に—」第 7 回インドネシア人研究者との合同研究発表会 (国立スラバヤ

大学) 2018 年 3 月

博士後期課程 2 年

シャミシエワ・ナズグリ

共著論文：

- ・大崎紀子・シャミシエワ ナズグリ (2018)「キルギス語の補助動詞 kal-の意味と本質ーアスペクトと共起制限をめぐる二つの疑問ー」, 林徹ほか(編) Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume, Contribution to the Studies of Eurasian Language (CSEL) Series 20, The Consortium for the Studies of Eurasian Languages, pp. 345-362.

口頭発表：

- ・「キルギス語の動詞 bol-の意味と用法に関する一考察」、2016 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会、京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター(羽田記念館)、2017.3.30
- ・「キルギス語における自動詞と他動詞についての一考察：語彙的 vs. 文法的」、2017 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会、京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター(羽田記念館)、2018.3.29

博士後期課程 2 年

CHEN DONGSHU

論文：

- ・「受身文からみる日本語と中国語の談話構成の特徴ー中日・日中対訳データに基づいてー」『日本語・日本文化研究』(大阪大学大学院言語文化研究科) 2016 年 12 月. pp. 127-138.
- ・「『てしまう』と『ちゃう』の用法について」『阪大日本語教育学研究』(大阪大学大学院言語文化研究科) 2017 年 3 月. pp. 63-68.

口頭発表：

- ・「日本語と中国語の談話構成上の特徴ー中国語から日本語への翻訳に見られる受身の使用に基づく分析ー」2016 年第十一回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(香港公開大学) 2016 年 11 月 19 日.

- ・「漢日被动句的功能对比研究—以中日电视剧中被动句的使用情况为例」第九届汉日对比语言学研讨会（北京工业大学）2017年8月19日。
- ・「日中受身文の『視点の制約』と『影響性の含意』—テレビドラマの会話文の分析を通して—」第31回日本語日本文化教育研究会（大阪大学中之島センター）2018年3月17日。

博士後期課程2年

THU THU NWE AYE

論文：

- ・「ジャナイカの典型的機能と周辺の機能—ビルマ語、カザフ語、タイ語、インドネシア語との対照から—」『複数の体系から見た日本語研究ワークショップ報告論集』第1号、（共著者：植田 志穂・カンジャマーポンクン サティダー・ドゥウィ プスピトサリ・ラヒムバエヴァ ナジム）大阪大学中田一志研究室，2017年3月。 pp.13-26.
http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/~hitoshi_nakata/FILES/MSJ1.pdf
- ・「日本で子育てをする国際結婚家庭における親の教育姿勢とその影響—ミャンマー人母親二人の事例比較—」『日本語・日本文化研究』第27号、（共著者：真嶋順子）大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻，2017年12月。 pp.39-49.
- ・「日本語とビルマ語における格助詞の機能及び体系に関する対照研究—格助詞の交替現象を中心に—」『日本語・日本文化研究』第27号、大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻，2017年12月。 pp.108-117.

口頭発表：

- ・「ビルマ語から見た日本語の格助詞 (Japanese Case Particles from the Viewpoint of Myanmar Language)」11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(香港公開大学) 2016年11月20日
- ・「日本語における有形と無形の格助詞の交替現象—対照言語学からのアプローチ—」第16回チュラーロンコーン大学・大阪大学大学院生研究交流会 (チュラーロンコーン大学) 2017年8月22日
- ・「ビルマ語の-ka.と-ko_は格助詞か」、チベット=ビルマ言語学研究会第43回会合(神戸研究学園都市 UNITY) 2017年12月10日

- ・ 「myama_ba_Da_hnou'pyO:zaga:ysi.nau'shE'pyi'si:mya;hniN.pa'TE'ywe. japaN_ba_Da_hniN.hnaiN:ysiN_Tu.te_Tana.pyu.ya_dwiN_ twe.syi.ya.DO:achE'mya: (ビルマ語口語の格助詞について—日本語との対照研究によって明らかになったこと—)」 ヤンゴン外国語大学創立 54 周年記念発表会 (ヤンゴン外国語大学) 2018 年 3 月 16 日

博士後期課程 2 年

POONVONGPRASERT THANIT

論文：

- ・ 「「手伝いの依頼に対する断り」表現における日本語・タイ語母語話者の意味公式使用の違い—目上からの依頼に対する断りを中心に—」 『社会言語科学会第 40 回大会発表論文集』 (社会言語科学会) 2017 年 9 月 16-17 日. pp. 18-21.
- ・ 「手伝えることについての重い依頼に対する「断り」の日タイ対照研究—親疎関係による分析—」 『日本語・日本文化研究第 27 号』 (大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻) 2017 年 12 月. pp. 170-182.

口頭発表：

- ・ 「「手伝いの依頼に対する断り」における日本語・タイ語母語話者の意味公式使用の違い—目上からの重い依頼に対する断りを中心に—」日本語日本文化教育研究会第 29 回(大阪大学 中之島センター) 2017 年 6 月 24 日.
- ・ 「「手伝いの依頼に対する断り」表現における日本語・タイ語母語話者の意味公式使用の違い—目上からの依頼に対する断りを中心に—」社会言語科学会第 40 回大会 (関西大学) 2017 年 9 月 16-17 日.

博士後期課程 2 年

RATTANAPONGPINYO PRATYAPORN

論文：

(単著)

- ・ 「日・タイ推量表現にかかわる認知的モダリティ形式— 現実と推論が異なる場合の『ハズダ』—」 『日本語・日本文化研究』 (日本語・日本文化研究) 2016 年 12 月. pp. 139-146.

(共著)

- ・金吉任、ラッタナポンピンヨ プラッチャヤポーシ 「『ておく』の指導—韓国語・タイ語母語話者のための指導案に関する考察—」『阪大日本語教育学研究』8 (筒井佐代研究室) 2017年3月. pp.27-38.
- ・小亀拓也、ラッタナポンピンヨ プラッチャヤポーシ、トゥルスノヴァ マムラカット、レチフィ 「日本語の『の』を用いた名詞修飾表現に関する—考察—日本語とタイ語・ベトナム語・ウズベク語の対照—」『複数の体系から見た日本語研究ワークショップ報告論集』1 (中田一志研究室) 2017年3月. pp.40-49.

口頭発表：

- ・「『ダロウネ』と『カモシレナイネ』をめぐって—タイ語と対照させて—」日本語日本文化教育研究会発表会第29回 (大阪大学中之島センター) 2017年06月24日.
- ・「『ダロウネ』をめぐって—タイ語と対照させて—」OPI国際シンポジウム第11回大会 (台湾・淡江大学) 2017年8月5日.

その他：

- ・「『ダロウネ』をめぐって—タイ語と対照させて—」OPI国際シンポジウム第11回大会 (予稿集)

博士後期課程3年

香月 裕介

論文：

- ・「タイ人日本語教師と日本人日本語教師との協働に関わる三つの要因—日本人日本語教師の不快な経験の分析から—」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要 第2号』(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会) 2017年3月. pp. 31-44. (共著、筆頭)
- ・「日本語教師はどのような感情地勢の中で実践を行っているか—大学で教える非常勤講師の語りの分析—」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要 第3号』(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会) 2018年3月. pp. 33-47. (単著)
- ・「タイの日本語教育現場における日本人教師の「情報共有」の姿勢の変容—「正統的周辺参加」論を手がかりに—」『タイの教師間協働の実証的研究と協働実践を促進するネットワーク構築に関する基礎研究 平成26年度～平成29年度科学研究費補助金基盤研究

(C) 研究成果報告書』(研究代表者:中山英治、課題番号:26370613)2018年3月. pp.65-81.

(共著)

ポスター発表:

- ・「論文内に生じたずれとその要因-あるケース・スタディ研究の分析-」日本質的心理学会第14回大会(首都大学東京)2017年9月9日。(共同発表)
- ・「「学生個人とクラスを同時に見る」日本語教師の実践-教師の語りの現象学的分析-」協働実践研究会第13回研究会(早稲田大学)2017年12月2日。(単独発表)
- ・「日本人教師の役割分担に対する意識の変容を促す要因-タイの高校で働いたTAのインタビューより-」協働実践研究会第13回研究会(早稲田大学)2017年12月2日。(共同発表)

博士後期課程3年

千々岩 宏晃

論文:

- ・「スピーチスタイルアップシフトの会話分析を用いた研究:日本語の雑談における反応要求の技法」『日本語・日本文化研究(26)』(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻)2016年12月 pp.115-126
- ・「「忘れた」ということの相互行為分析-活動進行に必要かつ十分な情報提供-」『日本語・日本文化研究(27)』(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻)2017年12月 pp.128-138

口頭発表:

- ・「日本語の雑談における記憶に関する発話の分析と分類」社会言語科学会 第40回大会(関西大学)2017年9月16日

その他:

- ・「ノンプログラマーと初心者のための AutoHotkey の使い方超入門」Amazon Services International, Inc. 2017年12月
- ・「文系、しかも"ゼロ"(だ)から始める!プログラミング的なこと入門」大阪大学外国学図書館における講習会、2017年5月16日
- ・「もやもやした気持ちをまとめるためのミニエッセイライティング」大阪大学外国学図

書館における講習会、 2017 年 12 月 19 日

博士後期課程 3 年

Simona Lukminaitė

論文：

- Lukminaitė, Simona. “Budō in the Meiji Education of Women.” 大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスター報告書 1 号. 2018 年 3 月. pp. 101-120.
- Lukminaitė, Simona, “Performing Language – Stepping into the Shoes of a Character.” Proceedings for the Japan in the World, Otemae University. 2018 年 3 月. pp. 128-136.
- Lukminaitė, Simona, “Shaping the Modern Japanese Woman through Literature: Iwamoto Yoshiharu’s Suggestions”. Ennen ja nyt, November 18, 2016, <http://www.ennenjanyt.net/2016/11/imagining-the-modern-japanese-woman-through-literature-iwamoto-yoshiharus-ideas/>.

口頭発表：

- Lukminaitė, Simona. “Budō in the Meiji Education of Women.” 大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスター. 2017 年 7 月 22 日.
- Lukminaitė, Simona. “Literature as an Educational Tool: The Practical Applications of Literature in the Education of Meiji Japanese Girls and Women at Meiji Jogakkō and Jogaku Zasshi”. Modern Literature and Education: Exploring New Approaches to the Study of Literature, 筑波大学. 2017 年 7 月 15 日.
- Lukminaitė, Simona. “Performing Language: Stepping into the Shoes of a Character.” Demo Lesson at 2nd “Japan in the World, The World in Japan: A Methodological Approach” International Conference, 大手前大学, 2016 年 12 月 4 日.
- Lukminaitė, Simona. “Martial Arts and the Education of Women in Meiji Japan.” Presentation at The 11th International Symposium on Japanese Language Education and Japanese Studies, 香港公開大学, 2016 年 11 月 19 日.

その他：

- 『多言語翻訳 梶井基次郎「桜の樹の下には」』 (大阪大学大学院文学研究科多言語翻訳プロジェクト (2017 年度) 2018 年 3 月発行) . pp. 37-38.

博士後期課程 3 年

李 偉

論文：

- ・「中国の日本語教科書における受身文の提示状況に関する一考察」『日本語教育学会 2016 年度第 9 回研究集会関西地区（大阪）予稿集』（日本語教育学会）2017 年 3 月 pp. 25-28
- ・「日本語の受身文の『結果描写』機能に関する一考察—原書と訳本の比較を通して—」『日本研究論集』（チュラロンコーン大学・大阪大学）15 号 2017 年 4 月 pp. 101-119

口頭発表：

- ・「中国の日本語教科書における受身文の提示状況に関する一考察」日本語教育学会 2016 年度第 9 回研究集会関西地区（大阪）（大阪 YMCA 国際専門学校）2017 年 3 月 11 日.
- ・「基于小说原文与日文译本对照分析的日语被动句功能探究（和訳：小説原書とその日本語訳の対照分析に基づく日本語の受身文の機能に関する一考察）第七届东亚汉语教学研究生论坛（和訳：第七回東アジア中国語教育大学院生研究フォーラム）（櫻美林大学）2017 年 5 月 14 日

博士後期課程 3 年

陳 冠霖 (CHEN KUANLIN)

論文：

- ・「アクセントの推測発音と自然性評価に見られる台湾人日本語学習者と日本語母語話者の差異」『間谷論集 12』（日本語日本文化教育研究会）2018 年 3 月（採択済）
- ・「台湾における日本語「-2 型アクセント」の生起の要因についての一考察」『日本語・日本文化研究 26』（大阪大学）2016 年 12 月. pp. 92-102.

ポスター発表：

- ・「日本語学習者が自然だと感じる日本語音声の特徴—発話速度、ポーズ、フィラーを中心に—」日本語日本文化教育研究会第 31 回研究発表会（大阪大学）2018 年 3 月 17 日

博士後期課程 3 年

張 硯君

論文：

- ・「源氏絵で学ぶ源氏物語—外国における新たな古典教育の試み—」『変化する国際社会における課題と可能性』第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集（香港日本語教育研究会、2016年11月）
- ・「白楽天文殊化身説の生成と展開」『白居易研究年報』第十七号（勉誠出版、2016年12月）
- ・「三条西実隆の知的関心—経学関係の漢籍を中心に—」『間谷論集』第十一号（日本語日本文化教育研究会、2017年6月）

口頭発表：

- ・「A Comparison of Chinese translations and English translations of The Tale of Genji: the difference in translating the Chinese Poems' adopted contents —With A Focus on the Adoption of “The Song of Everlasting Sorrow”—」第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（2016年11月20日、於香港公開大学）
- ・「清原宣賢の『大学』学説の形成—清家文庫蔵『大学抄』からみた先行学説の取捨を中心に—」第135回和漢比較文学会例会（西部）（2017年4月15日、於京都精華大学）
- ・「林宗和聞書抄『大学抄』の生成とその価値—講述聞書における校合の実態をめぐって—」、第41回国際日本文学研究集会、2017年11月12日、於国文学研究資料館）
- ・「江戸垂加神道家の『大学』理解—『大学綱之條工夫』からみた工夫論の実践構図を中心に—」、第2回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（2017年10月29日、於中国南開大学）